

フィールドワークによる 河川環境保全の研究

原田ゼミナール



～海ごみ問題の現状について～

現在、世界的に海ごみが問題となっています。そのプラスチックごみの多くは、生活ごみと呼ばれ、我々人間が生活によって海や河川に流出したものです。私たちが行う活動の中でも、こういった生活ごみは頻繁に目にするのがあり、他人事では済まされなくなっていることが分かりました。

これらが海岸に漂着することで景観を損なうだけでなく、海洋生物の誤飲・誤食による死亡や、生態系の変化を引き起こすといった影響があります。

原田ゼミナールではこの問題に目を向け、河川環境の保全や使い捨てのプラスチックによるごみ問題について学んでいます。

～合宿での漂着したペットボトルの調査～

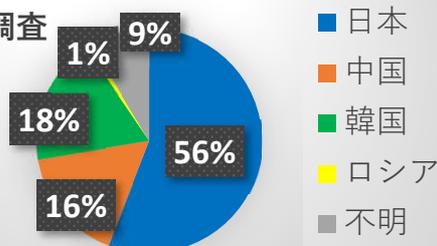
ゼミ合宿では主にペットボトルの調査をふたつの場所に分かれて行いました。ひとつは合宿で泊らせて頂いた旅館の海の海岸。もうひとつは冠島というところです。冠島とは京都府舞鶴市にある無人島でオオミズナギドリという鳥の繁殖地となっています。それにより島全体が天然記念物に指定されています。この調査はペットボトルを大小（500ml）に分け、そこからさらにバーコードを見ながらどの国から流れてきたものなのかを確認していきました。

ゼミ合宿2日目には歴史の勉強を行うために、赤レンガ倉庫や舞鶴引揚記念館に足を運び、そこで何が展示されているものなどを見に行きました。

この合宿では、夜に豪華な料理などを食べさせていただき、食事が終了した後は、各自釣りをしたりゲームをしたりするなどして自由な時間を過ごし、有意義な時間でした。



冠島での調査



～環境フェスティバル～

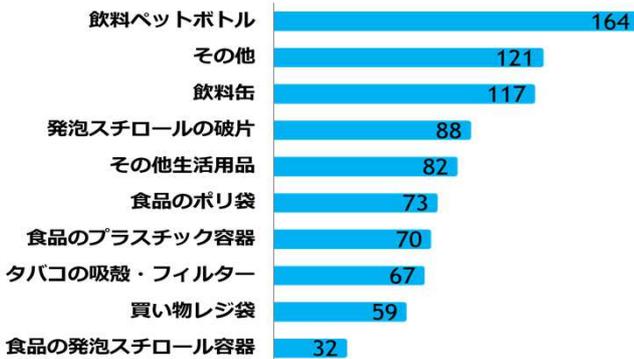
環境フェスティバルでは、使い捨てプラスチックを使って、鯨や人形を作り、使い捨てプラスチックの抑止活動を行いました。場所は花園ラグビー場で行い、先日行われたラグビーワールドカップでは、ごみの分別やポイ捨ての抑制を行った結果、ほかのラグビー場よりもごみが少なかったという成果を挙げる事ができました。地域への知名度も上げることができ、今後もっと広められるよう研究していきます。



～海老江・庭窪調査～

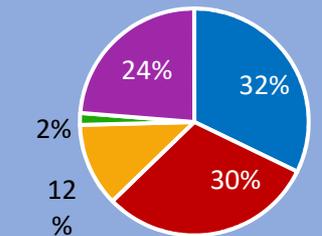
は淀川でのゴミ回収、庭窪調査ではゴミ回収、生態系の調査、イタセンパラの保全活動をした場所に分かれ行きました。ひとつは海老江駅を降りてすぐの場所。もうひとつは大日駅付近の場所です。庭窪で行った調査は原田ゼミだけでなく、他大学のゼミ生やパナソニックなどの企業、漁協組合の方と合同で行いました。このゴミ調査は河川敷にあるゴミの種類や割合を調査し、どのようなゴミが一番多く捨てられているかを知ることが出来ました。生態系調査では実際に川の中にいる生物を捕まえ、それが在来種か外来種かを判定し、種類ごとにまとめることでどの生物が多く生息しているかを知ることが出来ました。他にも、庭窪ワンドでは絶滅危惧種であるイタセンパラの保全活動を行っており、そのための環境改善や外来種撲滅運動をしています。

2019年（1～12月）海老江干潟 漂着ゴミ組成調査

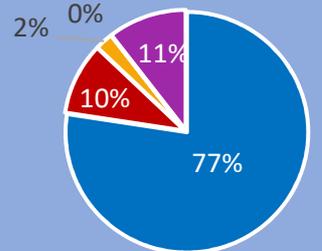


～アンケート調査～

私たち原田ゼミナールではレジ袋に関するアンケート調査を行いました実施場所は大阪の八戸の里駅前のライフ、京都の亀岡駅近くのアルプラザ亀岡、マツモト馬堀店です。このようなアンケート調査を行った理由としては調査をする地域でアンケート結果にどのような違いがあるのかということです。アンケートの内容としては主に海のプラスチック問題についてどれくらい知っているか、買い物に行く時のマイバッグの持参の有無やその理由、家庭にあるお店でもらったレジ袋の枚数や使い道、レジ袋の有料化の認知度、コンビニなどでレジ袋が配布禁止になった場合の抵抗の有無やその理由、お住まいの周辺地域で環境配慮が行われているかどうかなどです。右のグラフはあなたは買い物にマイバックを持っていますか？というアンケートの結果です。



ライフ八戸ノ里店



アルプラザ亀岡店



- a常に持ち歩いている
- b時々持って行く
- c家にはあるが持って行かない
- d家にあるレジ袋を持って行く
- eマイバッグは持っていない

～まとめ～

私たちはこのような調査を通して環境問題と向き合い活動を行なっています。現在も河川の環境問題は深刻です。1年間、この問題と向き合い学び感じた事は、海外と比較して日本はとても環境問題に対して遅れているということです。私たちはまずこの問題の深刻さを知り、一人一人の意識を変えることが大切だと思います。そのためにも、ゼミナールの活動を通して、たくさんの方に環境問題の深刻さについて知っていただけることを目標に取り組みでいきたいです。



スライド 2

大阪商業大学1 大阪商業大学, 2020/01/23

大阪商業大学2 大阪商業大学, 2020/01/23